

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者	
公衆栄養学Ⅱ	3年次	必修	講義	2単位（30時間）	真島 和徳 ※	
授 業 概 要						
わが国及び諸外国の健康・栄養問題の現状と課題と、それらに対応した栄養政策について振り返る。また、栄養疫学の原理と方法を学ぶとともに、セスメントの重要性を十分把握した上で、公衆栄養マネジメント大切さを学習する。加えて、地域特性等に対応した公衆栄養プログラムを紹介する。						
到 達 目 標						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・疫学の目的と方法について、栄養と関連づけて説明できる。</li> <li>・各食事調査法の特徴と方法、結果データの解釈について説明できる。</li> <li>・食事摂取基準の概念、各数値の策定根拠及び活用方法などが説明できる。</li> <li>・マネジメントの必要性やプログラムの評価の意義と方法について説明できる。</li> <li>・地域の状況とニーズに応じた公衆栄養プログラムの工夫や展開を説明できる。</li> </ul>						
実務経験のある教員						
真島 和徳：新潟県(病院、保健所等)での現場経験を踏まえ、地域・職域等における公衆栄養活動についてどのように展開されるのかを概説する。						
回	学 習 内 容				担当教員	
1	栄養疫学	公衆栄養学Ⅰの振り返り				真島 和徳 ※
2		栄養疫学の概要				
3		暴露情報としての食事摂取量				
4		食事摂取量の測定方法				
5		食事摂取量の評価方法				
6	公衆栄養マネジメント	概要アセスメント食事摂取基準の集団への活用				
7		アセスメント 質問調査の方法と活用等				
8		公衆栄養プログラム① 目標 計画				
9	公衆栄養プログラム② 実施 評価					
10	公衆栄養プログラム③					
11	公衆栄養プログラムの展開	地域特性に対応したプログラムの展開				
12		食環境づくりのためのプログラムの展開				
13		地域集団の特性別プログラムの展開①				
14		地域集団の特性別プログラムの展開②				
15		公衆栄養学まとめ				
学 習 方 法						
教科書や配付資料を中心に学ぶ。重要なキーワードや内容は、教科書や資料にある。授業でもポイントをまとめるが、自主的に重要項目を抜き出し、ノートにまとめることが重要。ノートまとめ力を身につけ、理解を深めるためことによって、国家試験対策にも繋がる学習力となる。 月曜試験問題を復習学習に活用することを望む。						
評 価 方 法						
〔評価方法〕 欠席・遅刻、早退が極力ないことが基本である。科目終了試験は60点以上を合格判定とし、月曜試験（評価量15%）を含めて成績の評価を行う。						
先 修 科 目						
教科書、参考書						
〔教科書〕 健康・栄養科学シリーズ「公衆栄養学」改訂第7版（吉池信男/林宏一編：南江堂） 〔参考書〕 わかりやすいEBNと栄養疫学（佐々木敏：同文書院） 国民健康・栄養調査の報告（健康・栄養情報研究会編：第一出版） 国民衛生の動向（厚生統計協会） 公衆栄養マニュアル（南山堂） 食事調査マニュアル（南山堂） 栄養調理六法（新日本法規） 日本人の食事摂取基準（2020年版）（第一出版）等						